

活かそう!

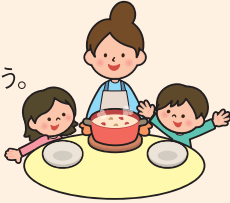
生き物からのめぐみを有効活用しよう



✓ 「いただきます」で感謝しよう

私たちは動物や植物の命をいただいて生きています。
好き嫌いをせず、大切な自然からのめぐみに感謝して食べよう。

✎ 好きな食べ物がどこでどのように作られているか調べてみよう。



✓ 地元のものや旬のものを食べよう

地元でとれた旬の野菜や果物を味わい、季節の移り変わりを感じよう。
地産地消は、輸送や生産エネルギーの削減にもつながります。

✎ 札幌市内ではどこでどんな野菜が作られているか調べてみよう。



✓ 手作り堆肥で野菜を作ろう

生ゴミも堆肥にすることで、資源に生まれ変わります。
できた堆肥を使い、自分で野菜を育ててみよう。

✎ 堆肥の作り方を調べてみよう。

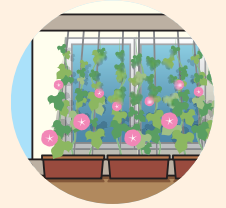


✓ 緑のカーテンを作ろう

緑のカーテンは、室温の上昇を抑え、
冷房の使用を減らす効果があります。

また、チョウやハチなどの生き物も集まってきます。

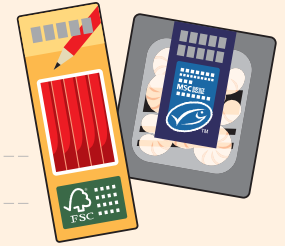
✎ 緑のカーテンはどんな植物で作ることができるか考えてみよう。



✓ 環境にやさしい商品を選ぼう

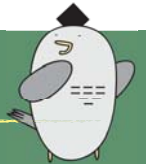
きちんと管理され、生産された商品を選ぶことは、
森林や農産物、水産資源を守ることに繋がります。

✎ FSCやMSC、フェアトレードについて調べてみよう。



教えて!
カッコウ先生!

地産地消とフードマイレージ



地域で生産された食べ物を地域で消費することを「地産地消」といいます。自然からのめぐみを実感することのできる地産地消は、地元の農業を応援したり、環境にやさしいというメリットもあります。「生産地から食卓までの距離が短い食料を食べた方が、輸送に伴う環境への負荷が少ない」という考え方を表す言葉が、「フードマイレージ」(食料の(=food)輸送距離(=mileage))です。生産地から食卓までの距離が長いほど、輸送にかかる燃料や二酸化炭素の排出量が多くなります。食品の輸入量が多い日本は、フードマイレージの総量が世界で一番大きい国です。190万人が暮らす大都市の札幌市は、玉ねぎやレタスなどの野菜の産地でもあります。私たちが輸入農産物ではなく国産、その中でも北海道産、札幌産のものを食べることが、環境負荷を減らすことにつながります。

いきものクイズ

Q3

札幌市の鳥であるカッコウは、他の鳥の巣に卵を産み、ヒナを育ててもらう「托卵」をする鳥です。
次のうちカッコウと同じように托卵をする鳥はどれでしょうか?

- A ウグイス B ツツドリ C シジュウカラ

いくつ正解するか挑戦してみよう!
答えは、14・15ページにあるッコウ!

